

《玉篇殘卷》と《王韻》の音義の比較研究  
A Comparative Study on the Pronunciation and Meaning of  
*Yu Pian Can Juan* and *Wang Yun*

周 歴  
ZHOU Li

要旨：本論文探究了南北朝の字書《玉篇》(543)の反切和釋義内容被唐朝の韻書《王韻》(706)參考引用的現象。從唐代開始，學術界一直把“篇韻”一詞作為字書和韻書的相配，《玉篇》和《切韻》(成書於601年，《王韻》的原本，現已散逸)是最初的“篇韻”。本論文是對“篇韻相配”的初步討論，對“篇韻学”的學術推廣具有一定意義。本研究利用日本現存的《玉篇殘卷》與《王韻》的所收字，經過對字條的整理和分類的分析，從反切注音和釋義兩方面，證明了《王韻》編修過程中參考引用了《玉篇》的事實。

キーワード：《玉篇殘卷》 《王韻》 反切 積義 引用

目次

- 1 はじめに
  - 2 《玉篇殘卷》と故宮本《王韻》の所収字
  - 3 《玉篇殘卷》と故宮本《王韻》同収字の音注研究
    - 3.1 同反切の同音字の音注
    - 3.2 異反切の同音字の音注
    - 3.3 異音字の音注
  - 4 《玉篇殘卷》と故宮本《王韻》同反切字の積義研究
    - 4.1 《說文解字》の積義
    - 4.2 《廣雅》の積義
    - 4.3 《埤蒼》の積義
    - 4.4 《字書》の積義
    - 4.5 《玉篇殘卷》の“野王案”
    - 4.6 他の文献の積義
  - 5 おわりに
- 参考文献

## 1 はじめに

“篇韻”は中国辞書史上における字書と韻書の分類の呼称である。“篇”は字書のことであり、南北朝の南梁時代に顧野王が編纂した《玉篇》(543)、北宋時代に陳彭年などが編纂した《大廣益會玉篇》(1013)、司馬光などが編纂した《類篇》(1066)を指す。“韻”は韻書のことであり、隋代に陸法言が編纂した《切韻》(601)、北宋時代に陳彭年などが編纂した《大宋重修廣韻》(1008)、丁度などが編纂した《集韻》(1039)を指す。“篇韻相配”の編纂伝統は中古時代、主に宋代の官修の篇韻編纂から形成された。

宋代以前の顧野王《玉篇》と陸法言《切韻》は時代が異なるが、最初の“篇韻”と指摘される。《玉篇》は漢字の部首順で編纂された字書であり、部首が542部に分けられ、所収字は16917個となる。原本の《玉篇》は散逸し、日本現存の残巻(以下《玉篇殘巻》と略称する)の所収字は約二千余個であり、原本の約8分の1を占める。また、唐代上元元年(674)に孫強が《玉篇》に基づいて増訂した《玉篇》は唐代に大いに影響を与えたが、現存しない。その約340年後、北宋の大中祥符六年(1013)に陳彭年などが《玉篇》を増訂し、《大廣益會玉篇》とした。《切韻》は漢字の韻部配列順で編纂された韻書であり、編者は陸法言で隋代の仁壽元年(601)に完成した。韻部は193韻であり、所収字は約12000個である。原本の《切韻》は残巻しか現存せず、その約100年後、唐代の神龍二年(706)に王仁昫が《刊謬補缺切韻》(以下《王韻》と略称する)を編纂した。《王韻》の韻部は195個になり、筆者の統計によると、所収字は17072個である。北宋の大中祥符元年(1008)に陳彭年などが勅令を受け、《大宋重修廣韻》(以下《廣韻》と略称する)という増訂版を刊刻した。《廣韻》の韻部は206韻になり、筆者の統計によると、所収字は25357個である。

時代的な隔たりは、《王韻》と《玉篇》が約160年となる。《王韻》の編集過程中に《玉篇》を参照し、あるいは引用した傾向があることは明らかである。《王韻》が実際にどの程度《玉篇》を参照したか、あるいは引用したのかを解明することは、本論文の研究目的である。本論文は主に《玉篇殘巻》と《王韻》の音注と釈義の異同を研究し、《切一》、《切二》、《切三》、《王一》等の資料を参照しながら、《玉篇殘巻》と《王韻》の相関関係とその影響を探求する。最初には《玉篇殘巻》の所収字を《王韻》同収字、《玉篇殘巻》単収字の二つに分類する。両書同収字の音注については同反切同音字、異反切同音字、異音字を三つに分類する。《玉篇殘巻》と《王韻》の音注を参照する関係は、主に両書の反切の異同に基づいて定義され、解釈を参照する関係は、釈義内容に関する単字の同用程度に従って定義される。

## 2 《玉篇殘巻》と故宮本《王韻》の所収字

《王韻》(706)は《玉篇》(543)より約160年遅れて編纂され、《廣韻》(1008)より約300年早く、《切韻》(601)より約100年遅れて編纂された。王仁昫《王韻序》によると、《王韻》は底本部分の墨写と新加部分朱写により、内容を厳密に区別した。しかし、敦煌



じである。以上、《切韻》諸残卷の同収字は合計で77個であり、反切もすべて《玉篇残卷》と《王韻》に一致する。《王一》は所収字が比較的に多いため、《切韻》諸残卷より同収字の重複率は高いが、反切用字にも《切韻》諸残卷からの改訂はなかった。その上、《王一》が《切韻》に基づいて所収字を大幅に増加し、《玉篇残卷》と《王韻》の同反切同音字122個のうち増収字<sup>1)</sup>は27個となる。多くの増収字は《王一》小韻の下に増やされた一方、《王一》の追加小韻に反切と共に増収された所収字もある。詳細は以下の通りである。

表1：《王一》における増収字反切比較表

	所収字	《切一》	《切二》	《切三》	《王一》	《王韻》と 《玉篇残卷》
1	哺	闕 <sup>2)</sup>	闕	無 <sup>3)</sup>	普胡反	普胡反
2	飢	闕	闕	無	五丸反	五丸反
3	陀	闕	闕	無	徒何反	徒何反
4	誦	闕	闕	無	吐和反	吐和反
5	陞	闕	闕	無	徒郎反	徒郎反
6	輜	闕	闕	無	徒郎反	徒郎反
7	統	闕	闕	無	呼光反	呼光反
8	聲	闕	闕	無	他登反	他登反
9	喪	闕	闕	無	於鬼反	於鬼反
10	紹	闕	闕	無	力舉反	力舉反
11	輶	闕	闕	無	音注闕 <sup>4)</sup>	胡罪反
12	摧	闕	闕	無	子罪反	子罪反
13	欣	無	闕	無	時忍反	時忍反
14	輶	無	闕	無	牛隕反	牛隕反
15	統	無	闕	無	胡管反	胡管反
16	餽	闕	闕	無	胡瓦反	胡瓦反
17	饑	闕	闕	無	力冉反	力冉反
18	儉	闕	闕	無	力冉反	力冉反
19	儉	闕	闕	無	魚儉反	魚檢反
20	饗	闕	闕	無	子冉反	子冉反
21	輶	闕	闕	無	音注闕	力竹反

<sup>1)</sup> 《王一》が《切韻》に基づいての増収した字は、《切韻》諸残卷現存部分における未収字である。

<sup>2)</sup> 闕：所収字の所屬小韻は欠損したため、所収状況を判断できないことを示す。

<sup>3)</sup> 無：所屬小韻にその字が未収であることを示す。

<sup>4)</sup> 音注闕：所屬小韻の所収字だが、小韻の音注が欠損したことを示す。

22	殼	闕	闕	無	許角反	許角反
23	縲	闕	闕	無	力質反	力質反
24	總	闕	闕	無	呼骨反	呼骨反
25	誅	闕	闕	無	徒結反	徒結反
26	誼	闕	闕	無	側革反	側革反
27	緯	闕	闕	無	止革反	口革反

故宮本《王韻》は《王一》の所収字より僅かに増加している。《玉篇殘卷》同反切の同音字 194 個と同じのは、多収字<sup>5</sup>の 13 個である。多数の多収字は《王一》の小韻の下に収められ、少数は《王韻》が《王一》に基づいて追加した小韻の下に収められた。詳細は以下の通り。

表 2 : 《王韻》増収字反切表 (《王一》との比較)

	所収字	《切一》	《切二》	《切三》	《王一》	《王韻》と 《玉篇殘卷》
1	靡	闕	闕	無	無	女交反
2	縞	闕	闕	無	無	古華反
3	彥	闕	闕	無	無	渠金反
4	綃	闕	闕	無	無	乃心反
5	紕	無	闕	無	無	於兩反
6	潤	闕	闕	闕	無	如舜反
7	啓	闕	闕	闕	無	古弔反
8	碭	闕	闕	闕	無	杜浪反
9	競	闕	闕	闕	無	渠敬反
10	聃	闕	闕	闕	無	渠敬反
11	紕	闕	闕	無	無	式出反
12	汽	闕	闕	無	無	許訖反
13	虜	闕	闕	無	無	五忽反

また、《玉篇殘卷》と《王韻》同反切同音字のうち、反切が敦煌本《切韻》及び《王一》諸殘卷と異なるのは合計 13 個となり、そのうち《切二》は 1 個、《切三》は 9 個、《王一》は 6 個である。敦煌本《切韻》と《王一》諸殘卷は反切が同じであり、故宮本《王韻》と《玉篇殘卷》も反切が同じであるため、《王一》は《切三》に近いが、《王韻》は《玉篇殘

<sup>5</sup> 《王韻》の多収字は《切韻》と《王一》など諸殘卷の現存部分に未収される字である。

卷》にもっと近い。詳細は以下の通り。

表 3：《王韻》改訂反切表（敦煌本諸殘卷との比較）

	所収字	《切一》	《切二》	《切三》	《王一》	《王韻》と 《玉篇殘卷》
1	礪	闕	力宗反	闕	闕	力冬反
2	輶	闕	闕	他回反	他迴反	他回反
3	輶	闕	闕	他回反	他迴反	他回反
4	駟	闕	闕	許喬反	許喬反	許高反
5	嶮	闕	闕	無	魚儉反	魚檢反
6	礪	闕	闕	慕鎔反	慕鎔反	莫鎔反
7	岳	闕	闕	昨結反	昨結反	子結反
8	碯	闕	闕	他合反	闕	徒合反
9	納	闕	闕	奴答反	闕	奴荅反
10	軌	闕	闕	奴答反	闕	奴荅反
11	岳	闕	闕	口答反	闕	口荅反
12	訣	闕	闕	古怙反	闕	古協反
13	汁	闕	闕	側什反	闕	之入反

以上の諸韻書の所収字と反切分布状況を分析すると、以下のような結論を導ける。

(1) 敦煌本《切韻》諸殘卷と《玉篇殘卷》の同収字同反切の層は、601年成書の《切韻》が編纂段階に543年成書の《玉篇》を実際に参照、あるいは引用したことを意味する。陸法言《切韻序》に“遂取諸家音韻，古今字書，以前所記者，定之為《切韻》五卷”と述べられており、その編纂過程の状況に一致する。

(2) 《王一》と《切韻》諸殘卷の同収字同反切の層は、《王一》の増訂過程で用いた《切韻》の底本が諸殘卷との一致度が高いことを示唆する。

(3) 《王一》の増収字層において、その反切が《玉篇》と同じである現象は、《王一》の増訂過程に《玉篇》を参照、あるいは引用したことを意味する。

(4) 故宮本《王韻》の反切と諸殘卷の反切がすべて異なる一方、逆に《玉篇殘卷》の反切と同じになっている部分は、①《王韻》が《王一》によって収めた字の層、②《王韻》が《王一》に基づいて《玉篇》を引用して増訂した層、③《王韻》と《王一》の増訂に用いた《切韻》の底本が異なる層、という三つの層から構成されていると考えられる。正確な結論は更なる後続研究に譲る。

### 3.2 異反切の同音字の音注

《玉篇殘卷》と《王韻》の異反切同音字 1066 個のうち、平声字が 456 個、上声字が 197

個、去声字が 213 個、入声字が 200 個である。詳細は以下の通り。

1) 平声 456 字:

俾: 仇管-渠管<sup>6</sup>/懲: 力高-盧刀 /謙: 去兼-苦兼 /諷: 魚何-五歌 /謳: 於侯-烏侯 /評: 虎都-荒  
烏 /膳: 達曾-徒登 /讎: 視周-市流 /讒: 狃交-女交 /諛: 与珠-羊朱 /諷: 許爰-況哀 /讒: 居  
依-居希 /誣: 武虞-武夫 /讒: 竹尤-張流 /恤: 去牛-去求 /繼: 力官-落官 /憂: 力官-落官 /  
諠: 虛箕-許其 /諠: 力支-呂移 /訛: 子示-茲示 /皆: 子移-即移 /磨: 子移-即移 /詢: 道刀-  
徒刀 /詭: 道刀-徒刀 /訐: 呼田-呵憐 /旬: 呼泓-呼宏 /旬: 呼泓-呼宏 /誇: 苦華-苦瓜 /讎:  
虛園-況哀 /誼: 虛園-況哀 /讒: 徒回-杜回 /讒: 徒壘-度嵇 /諷: 吾戈-五和 /訛: 吾戈-五和  
/謀: 居疑-居之 /訐: 況俱-況于 /詢: 詡恭-許容 /訕: 詡恭-許容 /讒: 仕咸-士咸 /訶: 呼多-  
虎何 /誰: 是惟-視佳 /誓: 先奚-素雞 /訛: 有周-羽求 /誅: 致娛-陟輸 /該: 古來-古哀 /警:  
於題-烏鷄 /誼: 呼橫-虎橫 /譚: 徒魃-徒南 /吟: 牛金-魚音 /謀: 於驕-於喬 /諠: 於含-烏含  
/論: 於含-烏含 /讒: 楚郊-楚交 /誦: 女函-女咸 /譚: 尤朱-羽俱 /設: 他勞-吐高 /訛: 渠留-  
巨鳩 /該: 口回-苦回 /詔: 他勞-吐高 /誓: 乃經-奴丁 /粵: 普經-普丁 /寧: 奴庭-奴丁 /奇:  
竭知-渠羈 /哥: 古何-古俄 /義: 絳奇-許羈 /乎: 戶枯-戶吳 /亏: 禹俱-羽俱 /于: 禹俱-羽俱  
/平: 皮兵-蒲兵 /音: 猗金-於吟 /韶: 視昭-市招 /章: 諸羊-諸良 /籛: 薄公-薄紅 /吟: 牛金-  
魚音 /訛: 除奇-直知 /讒: 於迎-於京 /經: 駭耕-戶耕 /𠄎: 詡煩-況哀 /單: 丁安-都寒 /單:  
乃多-諾何 /𠄎: 魚巾-語巾 /喪: 思唐-息郎 /壘: 蘓庭-桑經 /參: 所金-所今 /歎: 才心-昨淫  
/箴: 充垂-昌爲 /讒: 除离-直知 /錯: 胡皆-戶皆 /斲: 魚斤-語斤 /𠄎: 力丁-郎丁 /𠄎: 彥陳-  
語巾 /𠄎: 思唐-息郎 /𠄎: 呼丁-呼形 /商: 舒羊-書羊 /爾: 舒羊-書羊 /爾: 舒羊-書羊 /商:  
舒羊-書羊 /歎: 力丸-落官 /欽: 去金-去音 /歎: 呼娛-況于 /歎: 与於-与魚 /歎: 視專-市緣  
/歎: 呼官-呼丸 /欣: 虛股-許斤 /歌: 古何-古俄 /欽: 呼恬-許兼 /歎: 欣疑-許其 /欽: 烏來-  
烏開 /歎: 子移-即移 /歎: 欣居-許魚 /𠄎: 呼兼-許兼 /𠄎: 公温-古渾 /歎: 屋徒-哀都 /歎:  
苦唐-苦岡 /歎: 羲金-許金 /軟: 舒臣-書鄰 /歎: 於亘-於離 /歎: 於牛-於求 /歎: 思均-相倫  
/歎: 虛娛-況于 /𠄎: 甫云-府文 /𠄎: 甫云-府文 /饗: 思流-息流 /饗: 於恭-於容 /𠄎: 於恭-  
於容 /飴: 翼之-与之 /𠄎: 翼之-与之 /𠄎: 翼之-与之 /錫: 徒當-徒郎 /飢: 蕪昆-思渾 /舖:  
補湖-博孤 /飢: 且丹-倉干 /𠄎: 式尚-書羊 /𠄎: 莫東-莫紅 /𠄎: 戶徒-戶吳 /𠄎: 戶徒-戶吳  
/𠄎: 如燒-如招 /餘: 与居-与魚 /𠄎: 翼廉-余廉 /𠄎: 徒昆-徒渾 /𠄎: 猪壇-陟良 /𠄎: 胡昆-  
戶昆 /𠄎: 古來-古哀 /𠄎: 徒當-徒郎 /𠄎: 丁回-都回 /𠄎: 徒奚-度嵇 /𠄎: 紀言-居言 /𠄎:  
於元-於袁 /𠄎: 達兼-徒兼 /甘: 古藍-古三 /嘗: 視楊-時羊 /嘗: 視楊-時羊 /次: 囚仙-敘連  
/𠄎: 囚仙-敘連 /𠄎: 五高-五勞 /𠄎: 渠基-渠之 /𠄎: 渠基-渠之 /𠄎: 公啼-古嵇 /占: 之鹽-  
職廉 /庸: 餘鍾-餘封 /由: 餘周-以周 /爻: 胡交-胡茅 /𠄎: 扶園-附袁 /希: 虛衣-虛機 /車:  
齒耶-昌遮 /𠄎: x倫-勅屯 /𠄎: x倫-勅屯 /𠄎: 力庭-郎丁 /𠄎: 力庭-郎丁 /登: 瞿營-渠營 /

<sup>6</sup> 本論文のすべての例で、短い横線で区切られた 2 組の反切は、順に《玉篇残卷》と《玉韻》の反切である。

輪：力均-力屯 / 輪：始珠-式朱 / 輜：之由-職鳩 / 輗：區方-去王 / 輦：苦耕-口莖 / 輓：視專-市緣 / 輓：視專-市緣 / 輓：魚雞-五嵇 / 輓：思流-息流 / 輓：口胡-苦胡 / 輓：蒲勞-薄褒 / 輓：力公-盧紅 / 輓：徒多-徒何 / 輓：力胡-落胡 / 輓：力迴-路回 / 舟：之由-職鳩 / 俞：翼珠-羊朱 / 彤：餘終-餘隆 / 隴：力都-落胡 / 艘：子公-子紅 / 舩：徒東-徒紅 / 離：子隣-將鄰 / 航：何唐-胡郎 / 艦：力庭-郎丁 / 舩：力庭-郎丁 / 汙：似流-似由 / 泗：似流-似由 / 淒：且奚-七嵇 / 湮：於神-於鄰 / 濛：莫公-莫紅 / 沈：雉林-除深 / 涵：胡魃-胡南 / 漫：於劉-於求 / 濂：理兼-勒兼 / 濂：枯郎-苦岡 / 消：思姚-相焦 / 汀：剃丁-他丁 / 滂：於徒-哀都 / 灑：讓之-如之 / 泔：古藍-古三 / 涪：湯昆-他昆 / 涼：力漿-呂張 / 澆：公堯-古堯 / 滂：公堯-古堯 / 滂：公娥-古俄 / 滄：且郎-七崗 / 猛：奴高-奴刀 / 嬖：奴高-奴刀 / 謁：遇俱-語俱 / 岨：且居-七余 / 岡：古唐-古郎 / 岑：仕金-鋤金 / 巒：力官-落官 / 崑：亘金-魚音 / 崇：仕隆-鋤隆 / 窰：仕隆-鋤隆 / 巖：牛芟-五銜 / 岳：牛咸-五咸 / 嵯：慈柯-昨何 / 峨：五多-五歌 / 崕：楷耕-口莖 / 嶸：胡萌-戶萌 / 崕：胡萌-戶萌 / 崕：力彫-落蕭 / 崕：且泉-此緣 / 崕：子昆-即昆 / 崕：口公-苦紅 / 崕：渠驕-奇驕 / 嶸：許奇-許羈 / 崕：渠亘-渠羈 / 岐：渠亘-渠羈 / 嶸：胡交-胡茅 / 崕：五虧-魚爲 / 崕：思隆-息隆 / 崕：思隆-息隆 / 崕：烏懷-乙乖 / 崕：胡乖-戶乖 / 崕：力唐-魯當 / 崕：力丁-郎丁 / 崕：仕芟-鋤銜 / 崕：古魂-古渾 / 崕：力昆-盧昆 / 崕：猗廉-英廉 / 崕：子辭-子慈 / 崕：胡端-胡官 / 崕：思遵-相倫 / 崕：餘俱-羊朱 / 崕：五男-五舍 / 崕：丘亘-去奇 / 崕：丘隅-氣俱 / 崕：綺金-去音 / 崕：牛丸-五丸 / 崕：補朋-北騰 / 崕：達都-度都 / 崕：牛迴-五回 / 崕：牛威-語章 / 崕：牛佳-五佳 / 崕：力彫-落蕭 / 崕：徐楊-似羊 / 崕：力居-力魚 / 崕：徒丁-特丁 / 崕：馳俱-直朱 / 崕：力占-力鹽 / 崕：力侯-落侯 / 崕：徒雷-杜回 / 崕：餘周-以周 / 崕：欣音-許金 / 崕：力彫-落蕭 / 崕：力彫-落蕭 / 崕：力彫-落蕭 / 崕：思楊-息良 / 崕：力奚-落奚 / 崕：仕加-鋤加 / 崕：思移-息移 / 崕：所留-所鳩 / 崕：力三-盧甘 / 崕：力唐-魯當 / 崕：苦廊-苦岡 / 崕：息胡-息吾 / 崕：力臺-落哀 / 崕：於含-烏含 / 崕：呼交-許交 / 崕：徒泥-度嵇 / 崕：妨俱-撫扶 / 崕：都田-都賢 / 崕：都迴-都回 / 崕：古豪-古勞 / 崕：徒丁-特丁 / 崕：但高-昨勞 / 崕：遇為-魚爲 / 崕：丘知-去奇 / 崕：奴胡-乃胡 / 崕：彼媯-彼爲 / 崕：力唐-魯當 / 崕：口耕-口莖 / 崕：苦交-口交 / 崕：牛咸-五咸 / 崕：力公-盧紅 / 崕：思煎-相然 / 崕：午堅-五賢 / 崕：午堅-五賢 / 崕：甫廉-府廉 / 崕：甫廉-府廉 / 崕：且何-七河 / 崕：力尤-力求 / 崕：之餘-章魚 / 崕：丁迴-都回 / 崕：居依-居希 / 崕：扶園-附袁 / 崕：下加-胡加 / 崕：之仁-職鄰 / 崕：下研-胡千 / 崕：思賢-菴前 / 崕：思移-息移 / 崕：午交-五交 / 崕：力煎-力延 / 崕：徒公-徒紅 / 崕：力牛-力求 / 崕：齒耶-昌遮 / 崕：鉅於-強魚 / 崕：都泥-當嵇 / 崕：且泉-此緣 / 崕：披萌-普耕 / 崕：披萌-普耕 / 崕：苦耕-口莖 / 崕：渠驕-奇驕 / 崕：徒勞-徒刀 / 崕：力宗-力冬 / 崕：都迴-都回 / 崕：於金-於吟 / 崕：餘章-與章 / 崕：於何-烏何 / 崕：側流-側鳩 / 崕：牛俱-語俱 / 崕：徒雷-杜回 / 崕：口營-去營 / 崕：扶方-符方 / 崕：都奚-當嵇 / 崕：都奚-當嵇 / 崕：胡庭-戶經 / 崕：於回-烏恢 / 崕：於：於幾-於機 / 崕：於奇-於離 / 崕：除珍-直珍 / 崕：除珍-直珍 / 崕：徒高-徒刀 / 崕：餘占-余廉 / 崕：雉居-直魚 / 崕：古臺-古哀 / 崕：蒲杯-薄恢 / 崕：欺於-去魚 / 崕：時均-常倫 / 崕：力均-力屯 / 崕：力弓-力中 / 崕：始繩-識承 / 崕：於歸-於非 / 崕：餘鍾-餘封 / 崕：丈加-宅加 / 崕：



似林-徐林 / 隣：似林-徐林 / 隋：徒當-徒郎 / 阡：於于-憶俱 / 隴：補朋-北騰 / 職：虛奇-許羈 / 際：胡勞-胡刀 / 隄：力侯-落侯 / 糸：厝耽-倉含 / 鹹：之深-職深 / 鯛：徐鳩-似由 / 鱗：如珠-日朱 / 繼：蘇高-蕪刀 / 純：時均-常倫 / 緇：口皆-客皆 / 紙：丁奚-當嵇 / 經：雞庭-古靈 / 篆：如深-如林 / 紓：始居-傷魚 / 緇：扶元-附袁 / 綢：直周-直由 / 絳：渠周-巨鳩 / 紉：渠周-巨鳩 / 終：之戎-職隆 / 弁：之戎-職隆 / 鼻：之戎-職隆 / 縑：古嫌-古甜 / 緋：徒奚-度稽 / 紬：除留-直由 / 縷：且奚-七嵇 / 絳：之瑜-止俱 / 縑：虛軍-許云 / 紫：子示-茲示 / 緝：渠基-渠之 / 綦：渠基-渠之 / 纜：使監-所銜 / 纓：於成-於盈 / 綏：乳佳-儒佳 / 紳：舒仁-書鄰 / 綸：力旬-力屯 / 緹：達丁-特丁 / 絞：補柯-博何 / 條：吐刀-吐高 / 縱：子凶-即容 / 紉：循遵-詳遵 / 緇：除恭-直容 / 纜：先羊-息良 / 縫：扶封-符容 / 縑：力支-呂移 / 繫：於奚-烏鷄 / 微：虛歸-許歸 / 絳：側耕-側莖 / 絢：求俱-其俱 / 縑：達曾-徒登 / 編：卑綿-卑連 / 維：翼錐-以佳 / 繁：扶元-附袁 / 緇：居羊-居良 / 紛：孚云-撫云 / 緇：且牛-七遊 / 緇：公曾-古恒 / 紙：亡巾-武巾 / 緇：力奚-落奚 / 紉：豐扶-撫扶 / 縑：力胡-落胡 / 綸：徒侯-度侯 / 縑：且雷-此回 / 緋：方莖-甫萌 / 綏：髓惟-息遣 / 縑：徒高-徒刀 / 繁：扶藩-附袁 / 統：力周-力求 / 縑：鉅於-強魚 / 緋：甫違-匪肥 / 縑：丘權-去圓 / 縑：荆高-吐高 / 縑：子公-子紅 / 紉：胡端-胡官 / 縑：力楊-呂張 / 綸：力丁-郎丁 / 縑：詞林-徐林 / 絳：公財-古哀 / 綢：齊咨-疾脂 / 綱：遏何-烏何 / 練：所聞-色魚 / 緇：於神-於鄰 / 絞：胡交-胡茅 / 孫：蕪昆-思渾

2) 上声 197 字:

詰：軋仰-其兩 / 籛：是闕-常演 / 啓：居影-几影 / 詡：吁雨-沉羽 / 認：思理-胥里 / 偃：下啓-胡禮 / 調：丑冉-丑琰 / 詒：丑冉-丑琰 / 讓：洛口-盧斗 / 詎：空後-苦厚 / 詭：達鳥-徒了 / 詭：虛罔-許昉 / 謨：胡啓-胡禮 / 讓：胡啓-胡禮 / 誘：餘手-与久 / 誦：餘手-与久 / 睿：居展-居輦 / 讓：居展-居輦 / 讓：居展-居輦 / 讓：都朗-德朗 / 讓：旅黨-盧黨 / 詭：於礼-一弟 / 譜：逋魯-博古 / 善：是闕-常演 / 乃：奴改-奴亥 / 乃：奴改-奴亥 / 廬：奴改-奴亥 / 迺：奴改-奴亥 / 巧：苦道-苦浩 / 可：口我-枯我 / 每：公可-古我 / 響：虛兩-許兩 / 凵：口范-丘范 / 品：鉞錦-披欽 / 鮑：部巧-薄巧 / 款：口緩-苦管 / 款：口緩-苦管 / 歐：餘九-与久 / 歐：於口-烏口 / 欽：猗錦-於錦 / 餼：先但-蕪早 / 餅：卑井-必郢 / 養：甫鬼-非尾 / 養：餘掌-餘兩 / 餼：舍掌-識兩 / 餼：舍掌-識兩 / 飽：補狡-博巧 / 饗：補狡-博巧 / 餼：乙景-於丙 / 餼：乙景-於丙 / 餼：尸野-書也 / 餼：奴管-乃管 / 缺：於仰-於兩 / 餼：去善-去演 / 餼：無鬼-無匪 / 典：都珍-多藹 / 左：咨可-則可 / 甫：弗禹-方主 / 爾：如紙-兒氏 / 爽：踈兩-踈兩 / 爽：踈兩-踈兩 / 騎：於蟻-於綺 / 軌：詭鮑-居涓 / 軛：苦底-康礼 / 軛：如勇-而隴 / 軛：口亥-苦亥 / 軛：徒改-徒亥 / 軛：於近-於謹 / 軛：力感-盧感 / 軛：各可-古我 / 驛：子梯-子礼 / 軛：莫鯁-莫杏 / 滄：於孔-阿孔 / 決：於黨-烏朗 / 滄：於斂-應儉 / 潦：良道-盧浩 / 瀉：胡道-胡老 / 泝：之是-諸氏 / 準：之允-之尹 / 沮：仁九-人久 / 滄：且罪-七罪 / 溼：奴管-乃管 / 滴：耕眼-古限 / 澆：渠仰-其兩 / 滄：思酒-息有 / 灑：子紹-子小 / 瀉：充甚-尺甚 / 洒：桑礼-先礼 / 洗：桑顯-蕪典 / 配：去紀-墟里 / 暨：同果-徒果 / 巖：但隗-徂賄 / 寮：力隗-落猥 / 岫：古後-古厚 / 岫：他罪-吐猥 / 嶺：胡鼓-胡古 / 嶺：

力孔-力董 /崧：即孔-作孔 /崧：閭是-力氏 /嶼：辭旅-徐呂 /嶼：子諫-遵諫 /嶺：力井-李郢 /府：夫禹-方主 /庀：徒本-徒損 /序：徐舉-徐呂 /虜：力鼓-郎古 /庠：牛假-五下 /廡：無禹-無主 /廡：無禹-無主 /庠：餘乳-以主 /廡：餘乳-以主 /庠：俾井-必郢 /廡：於整-於郢 /庠：裨弭-便俾 /庠：方拱-方奉 /廡：思踐-息淺 /廡：胡暇-胡雅 /曆：居鮪-居洧 /居：胡土-胡古 /庠：蒲講-步項 /厚：胡苟-胡口 /碧：居隴-居悚 /阿：力可-勒可 /礪：宜倚-魚倚 /砭：之視-職雉 /砥：之視-職雉 /礪：丁敢-都敢 /礪：力罪-落猥 /礪：力罪-落猥 /礪：力咬-盧鳥 /礪：薄項-步項 /礪：古混-古本 /碼：莫蝦-莫下 /礪：口本-苦本 /磊：力罪-落猥 /礪：力罪-落猥 /阜：扶九-房久 /隄：胡緄-胡本 /險：義儉-虛檢 /限：胡眼-胡簡 /隄：徒罪-徒猥 /隄：牛罪-五罪 /遣：丘善-去演 /隴：力羣-力奉 /險：式冉-失冉 /阮：牛遠-虞遠 /陪：之与-諸与 /陞：蒲礼-傍礼 /陽：於古-烏古 /吟：里井-李郢 /阡：辭旅-徐呂 /陶：呼矩-況羽 /譚：充善-昌善 /饒：祖道-子浩 /緒：詞旅-徐呂 /紀：居擬-居以 /給：徒愷-徒亥 /紹：時少-市沼 /繫：時少-市沼 /繞：如小-而沼 /辯：蒲珍-薄典 /綺：祛倚-墟彼 /綦：苦體-康礼 /緇：莫體-莫礼 /綦：子孔-作孔 /縵：子老-子浩 /縵：他敢-吐敢 /縵：山綺-所綺 /縵：山綺-所綺 /紆：丁敢-都敢 /緩：時帶-植酉 /組：作古-則古 /纂：子緩-作管 /縵：子緩-作管 /紐：女九-女久 /縵：補道-博抱 /縵：力禹-力主 /紆：除柳-直柳 /縵：先酒-息有 /紆：直忍-直引 /縵：直忍-直引 /紆：直忍-直引 /縵：格杏-古杏 /紙：之是-諸氏 /紆：除旅-除呂 /縵：旅縵-力弊 /縵：所縵-踈兩 /縵：祛善-去演 /縵：且幸-倉幸 /縵：几免-居輦 /縵：無仰-文兩 /縵：於近-於謹 /縵：弋冉-以冉 /緝：如止-而止 /縵：餘忍-余畛 /縵：初旅-初舉 /紛：甫慎-方吻

### 3) 去声 213 字:

話：胡快-下快 /誼：魚寄-宜寄 /誼：胡退-胡對 /譚：補佐-補箇 /記：居意-居吏 /譽：餘庶-余據 /訝：魚嫁-吾駕 /詣：魚計-五計 /訶：而振-而晉 /課：桑到-菘到 /諺：千紺-七紺 /謾：馬諫-莫晏 /詳：士亞-鋤駕 /誼：俱放-九忘 /詛：俎擄-側據 /誤：牛故-吾故 /誼：公賈-古賈 /詭：胡內-胡對 /誼：餘世-餘制 /誼：胡濫-下瞰 /誼：胡濫-下瞰 /誼：呼會-虎外 /訓：公弔-古弔 /誼：於路-烏故 /謬：於路-烏故 /誼：息悸-雖遂 /證：諸孕-諸磨 /調：呼政-虛政 /誼：呼縣-許縣 /誼：呼縣-許縣 /諱：詡貴-許貴 /誼：許遊-呼候 /詔：諸曜-之笑 /讚：子旦-作幹 /詠：旅政-力正 /誓：古儂-格儂 /論：餘照-弋笑 /詔：充向-昌亮 /響：虛向-許亮 /誼：詡教-呼教 /誼：治遂-直類 /詠：居宥-久祐 /認：且送-千弄 /譚：達計-特計 /諫：力代-洛代 /諛：於報-烏到 /磨：於甌-於證 /譚：胡報-胡到 /詛：丑嫁-丑亞 /諺：丑嫁-丑亞 /謾：渠竟-渠敬 /藝：魚世-魚祭 /臬：先到-菘到 /器：祛翼-去翼 /器：祛翼-去翼 /歇：桑弔-菘弔 /歇：欣既-許既 /歇：子妙-子肖 /歇：於利-乙利 /歇：枯戴-苦愛 /歇：於訝-烏訝 /歇：素豆-菘豆 /歇：丘庶-却據 /歇：丘暇-口訝 /館：充志-尺志 /饋：子旦-作幹 /履：子旦-作幹 /飭：女又-女究 /饋：渠愧-遠位 /饋：渠愧-遠位 /饋：於寸-烏困 /饋：於縣-烏縣 /饋：呼帶-海盖 /饋：呼癢-許穢 /饋：古換-古段 /饋：五賀-五箇 /饋：始銳-舒芮 /饋：始銳-舒芮 /饋：力蒸-六應 /饋：如志-仍吏 /饋：餘障-餘亮 /餐：之世-職例 /飭：扶萬-符万 /餽：虛氣-許既 /餐：居媛-居倦

/饑：之庶-之據 /饒：視艷-市艷 /饋：視利-常利 /餒：子尙-子峻 /貳：徒載-徒戴 /放：甫望-  
 府妄 /駟：先頓-菑困 /巽：先頓-菑困 /昇：俾寐-必至 /奠：徒見-堂見 /卦：呼潰-荒佩 /用：  
 瑜共-余共 /崩：瑜共-余共 /甯：奴定-乃定 /懣：都憤-都佩 /軻：如振-而晉 /輦：竹利-陟利  
 /輓：竹利-陟利 /輦：古麗-古詣 /輓：仕潤-士諫 /輓：仕潤-士諫 /輓：奇召-渠席 /輓：都賴-  
 都蓋 /舫：甫望-府妄 /万：武願-無販 /湊：青豆-倉候 /澍：之樹-之戌 /瀑：蒲到-薄報 /澤：  
 如庶-而據 /洳：如庶-而據 /滯：直厲-直例 /瀾：耕厲-居厲 /汙：於故-烏故 /浼：始銳-舒芮  
 /汰：達蓋-徒蓋 /灑：達見-堂見 /浚：思潤-私閨 /溶：思潤-私閨 /潛：思潤-私閨 /瀾：力旦-  
 盧旦 /漱：所醫-所救 /淬：此潰-七碎 /頹：呼憤-荒佩 /沫：呼憤-荒佩 /岫：祀又-似祐 /峻：  
 思駿-私閨 /隄：思駿-私閨 /嶺：五幹-五旦 /庫：口故-苦故 /瘡：古會-古兌 /庶：詩豫-式據  
 /廢：甫吠-方肺 /廟：靡召-眉召 /廟：靡召-眉召 /庠：之讓-之亮 /廡：娛句-虞樹 /庇：雌潰-  
 此鼓 /厲：力逝-力制 /廡：力逝-力制 /扉：浮畏-扶沸 /廡：徒換-徒玩 /勳：力悼-盧到 /輓：  
 菑悼-菑到 /譽：餘庶-余據 /破：都段-丁貫 /碎：菑續-菑對 /礙：午概-五愛 /礪：莫賀-莫箇  
 /確：都誨-都佩 /硯：午見-五見 /砌：且計-七計 /礪：且對-七碎 /研：胡幹-胡旦 /礪：吉候-  
 古候 /磬：口定-苦定 /殼：口定-苦定 /陵：思駿-私閨 /陋：力豆-盧候 /降：鼓巷-古巷 /阨：  
 口盞-苦浪 /阨：於賈-烏懈 /隘：於賈-烏懈 /障：之讓-之亮 /陜：於報-烏到 /附：扶付-符遇  
 /諭：式注-傷遇 /陞：之曜-之笑 /陞：他玷-他念 /陞：辭醉-徐醉 /陞：子詣-子計 /陞：麻嫁-  
 莫駕 /韻：扶救-扶富 /韻：於賈-烏懈 /韻：似季-徐醉 /韻：胡跨-胡故 /韻：胡憤-胡對 /韻：  
 力對-盧對 /細：思計-菑計 /納：思計-菑計 /締：徒計-特計 /編：力卧-郎過 /緋：他叫-他弔  
 /練：力見-落見 /編：思又-息救 /絹：居掾-吉掾 /縉：子燼-即刃 /縉：思銳-相芮 /紛：渠禁-  
 巨禁 /綫：渠禁-巨禁 /綫：口故-苦故 /綫：思箭-私箭 /綫：思箭-私箭 /縉：時戰-視戰 /綫：  
 祛媛-丘弁 /縉：補漫-博漫 /絮：思據-息據 /欵：且利-七四 /縉：几厲-居厲 /縉：於鼓-於賜  
 /縉：作憤-子對 /縉：行孟-胡孟 /縉：徒外-杜會 /縉：力蹇-盧瞰 /縉：思爛-菑旦 /縉：亡句-  
 武遇 /系：奚計-胡計 /繇：奚計-胡計 /解：子內-子對

#### 4) 入聲 200 字：

愬：所革-所責 /謫：徒木-徒谷 /謫：徒苔-徒合 /設：尸熱-識列 /訥：奴骨-諾忽 /誅：私律-  
 辛辛 /謫：虛虐-虛約 /譽：蒲卓-蒲角 /謫：公穴-古穴 /譽：章葉-之涉 /譽：章葉-之涉 /謫：  
 徒闔-徒盍 /謫：知革-陟革 /詰：去質-去吉 /誣：丘物-區物 /譯：柯核-古核 /謫：徒頰-徒協  
 /譯：餘石-羊益 /謫：山陸-所六 /謫：所陸-所六 /譽：先斛-送谷 /謫：居陸-居六 /誅：呼歷-  
 許狄 /譯：魚各-五各 /譯：卑謚-比蜜 /詠：呼玦-呼決 /謫：力足-力玉 /謫：他狄-他歷 /誅：  
 他鹿-他谷 /習：呼沒-呼骨 /曷：何葛-胡葛 /沓：徒苔-徒合 /粵：有月-王伐 /告：公薦-古薦  
 /譽：口薦-苦沃 /朋：之六-之竹 /粵：魚各-五各 /哭：口木-空谷 /錄：古學-古岳 /朋：壯立-  
 阻立 /疆：魚各-五各 /歇：欣業-虛業 /歇：虛謁-許謁 /欸：子陸-子六 /欸：呼物-許物 /歇：  
 餘燭-余蜀 /歇：充燭-尺玉 /歇：可達-苦割 /歇：於滑-烏八 /歛：呼及-許及 /歇：丑出-丑律  
 /歇：昌悅-昌雪 /歇：呼勒-呼德 /饒：為輒-筠輒 /餽：於謫-烏革 /餽：莫撻-莫割 /餽：思毅-

送谷 / 飴: 公洽-古洽 / 餗: 蒲突-蒲沒 / 饌: 餘石-羊益 / 餽: 居陸-居六 / 餉: 於結-烏結 / 式: 詩力-商職 / 軾: 舒翼-商職 / 輅: 何格-胡格 / 駁: 古學-古岳 / 較: 古學-古岳 / 軸: 除陸-直六 / 輶: 公木-古鹿 / 轢: 力的-閭激 / 軼: 餘質-夷質 / 輓: 九縛-居縛 / 輅: 餘屬-余蜀 / 輓: 古曷-古達 / 輓: 徒篋-徒協 / 輓: 除列-直列 / 輓: 力木-盧谷 / 舳: 除陸-直六 / 舳: 伍骨-五忽 / 舳: 扶福-房六 / 舳: 奴的-奴歷 / 沒: 莫突-莫勃 / 溷: 子立-婦入 / 泥: 仕角-士角 / 渥: 烏學-於角 / 洽: 胡夾-侯夾 / 涸: 胡維-下各 / 灑: 胡維-下各 / 渴: 口過-苦割 / 溼: 詩立-失入 / 濕: 詩立-失入 / 涸: 去及-去急 / 涸: 徒苔-徒合 / 浙: 桑激-先擊 / 瀧: 理屋-盧谷 / 瀧: 理屋-盧谷 / 瀧: 與灼-以灼 / 液: 夷石-羊益 / 灑: 餘質-夷質 / 灑: 餘質-夷質 / 灑: 俎立-阻立 / 灑: 達的-徒歷 / 沐: 莫獸-莫卜 / 浴: 瑜屬-余蜀 / 鬻: 牛角-五角 / 岳: 牛角-五角 / 嶧: 餘石-羊益 / 嶧: 公霍-古博 / 密: 靡筆-美筆 / 靡: 扶弗-符弗 / 靡: 扶弗-符弗 / 峯: 仕百-鋤陌 / 岬: 五骨-五忽 / 嶼: 牛結-五結 / 峯: 餘灼-以灼 / 廩: 餘力-與職 / 廩: 焉達-烏割 / 庠: 於甲-烏甲 / 庠: 直格-根百 / 廩: 力木-盧谷 / 廩: 居越-居月 / 廩: 來的-閭激 / 廩: 午的-五歷 / 廩: 諧夾-侯夾 / 廩: 似亦-詳昔 / 毫: 蒲各-傍各 / 廩: 牛結-五結 / 石: 時亦-常尺 / 礫: 力的-閭激 / 礫: 力的-閭激 / 礫: 苦學-苦角 / 礫: 苦闔-苦盍 / 礫: 力狄-閭激 / 礫: 胡角-戶角 / 礫: 胡角-戶角 / 礫: 力各-盧各 / 礫: 思陸-息逐 / 礫: 力木-盧谷 / 礫: 且木-千木 / 礫: 才合-徂合 / 礫: 口角-苦角 / 礫: 口角-苦角 / 礫: 徒薦-徒沃 / 陟: 旅德-盧德 / 陟: 力鞠-力竹 / 陟: 力鞠-力竹 / 陟: 徵棘-竹力 / 陟: 辭立-似入 / 陟: 辭立-似入 / 陟: 丘戟-綺戟 / 陟: 補木-博木 / 陟: 魚劫-魚怯 / 飴: 公巾-古沓 / 飴: 徒括-徒活 / 飴: 子赤-資亦 / 飴: 子益-資亦 / 飴: 子益-資亦 / 飴: 夷石-羊益 / 飴: 齷齷-胡結 / 織: 之力-之翼 / 織: 之力-之翼 / 織: 之力-之翼 / 織: 似錄-似足 / 縮: 所陸-所六 / 暴: 九足-居玉 / 級: 崎立-居立 / 結: 吉姪-古屑 / 穀: 胡木-胡谷 / 綠: 力足-力玉 / 緝: 餘祝-與逐 / 緝: 如屬-而蜀 / 緝: 補木-博木 / 緝: 治銓-直質 / 緝: 胡篋-胡頰 / 繁: 之若-之藥 / 絡: 力各-盧各 / 緝: 且入-七入 / 緝: 子狄-則歷 / 緝: 祛逆-綺戟 / 緝: 先狄-先擊 / 絮: 公節-古屑 / 緝: 甫物-分勿 / 緝: 甫物-分勿 / 緝: 齒灼-處灼 / 緝: 且骨-龜沒 / 緝: 但各-在各 / 緝: 子陸-子六 / 緝: 所棘-所力 / 緝: 山卓-所角 / 緝: 力譴-離灼 / 緝: 力出-呂卹 / 緝: 甫物-分勿 / 緝: 甫物-分勿 / 約: 餘灼-以灼 / 緝: 力出-呂卹 / 緝: 齒灼-處灼 / 緝: 甫物-分勿 / 率: 山律-師出 / 緝: 力出-呂卹 / 緝: 力各-盧各

音注方面において、《王韻》が《玉篇殘卷》の反切を直接引用する用例は、同音の異反切を使用する用例よりもはるかに少ない。主な理由は、《王韻》の元来の小韻に準拠するために変更される。

### 3.3 異音字の音注

《玉篇殘卷》と《王韻》の異音字 624 個のうち、同声母字が 311 個、同韻母字が 172 個、異声母異韻母字が 141 個である。

## 4 《玉篇殘卷》と故宫本《王韻》同反切字の釈義研究

《玉篇殘卷》と《王韻》の同反切の同音字 194 個のうち、両書の釈義を比較すると、以下の状況になる。《王韻》の釈義に《玉篇殘卷》の釈義の一部の同じ例 103 個あり、釈義内容に関する単字の同用例に限定し、用例の一部で作表した。

#### 4.1 《説文解字》の釈義

両書の釈義の同じ例のうち、《説文解字》を引用する例は 32 個ある。詳細は以下の通り。

- 1) 《玉篇殘卷》：替，渠記反。《説文》忌<sup>7</sup>也。《周書》曰：尚不替于凶德是也。 / 《王韻》：替，替忌。【渠記反】
- 2) 《玉篇殘卷》：謫，呼卦反。《説文》疾言也。 / 《王韻》：謫，呼卦反。疾言。一。【呼卦反】
- 3) 《玉篇殘卷》：訴，蘓故反。《論語》公伯遼訴子路於季孫。馬融曰：訴也。野王案：《左氏傳》訴公於晉侯是也。《説文》訴，告也。野王案：訴者所以告冤枉也，故《楚辭》訴靈懷之鬼神是也。《廣雅》訴，毀也。訴，惡也。或為愬字，在心部。 / 《王韻》：訴，蘓故反。訟告。【蘓故反】
- 4) 《玉篇殘卷》：詆，都礼反。《説文》詆，訶也。野王案：《呂氏春秋》無詆無訶。《漢書》除誹謗。詆，欺法是也。《蒼頡篇》欺也。《廣雅》詆，毀也。《聲類》訶也。或為咤字，在口部也。 / 《王韻》：詆，詆訶。或作詆，咤。【都礼反】
- 5) 《玉篇殘卷》：虧，去為反。《毛詩》不虧不崩。《箋》云：虧猶毀壞也。《楚辭》芳菲菲而難虧。王逸曰：虧，歇也。又曰八柱何當，東南何虧。王逸曰：虧，缺也。《爾雅》虧，毀也。《説文》氣損也。《廣雅》虧，去也。虧，以也。或為虧字，在今部。 / 《王韻》：虧，去為反。損。通俗作虧。一。【去為反】
- 6) 《玉篇殘卷》：歛，時忍反。《説文》指而嘆也。 / 《王韻》：歛，指歛。【時忍反】
- 7) 《玉篇殘卷》：饑，五恨，五寸二反。《説文》饑饑也。《廣雅》饑，食也。 / 《王韻》：饑（饑），五恨反。饑。一。【五恨反】
- 8) 《玉篇殘卷》：飴，蒲結反。《毛詩》有飴其香。《傳》曰：飴，芬香也。《説文》食之香也。或為苾字，在草部。或為咈字，口部。或為飴字，在香部。或為黎字，在黍部。 / 《王韻》：飴，食。【蒲結反】
- 9) 《玉篇殘卷》：飡，他結反。《説文》食也。0601 餐，亦飡字也。 / 《王韻》：餐，食。亦作飡。【他結反】
- 10) 《玉篇殘卷》：輦，所眷，所卷二反。《説文》治車軸也。 / 《王韻》：輦，所眷反。車軸。二。【所眷反】
- 11) 《玉篇殘卷》：沼，胡感反。《説文》水泥沼也，一曰纒絲湯也。 / 《王韻》：沼，水和泥。【胡感反】

<sup>7</sup> 本論文は《玉篇殘卷》と《王韻》の同収字の項目全文を「//」で区切って掲載している。両書の釈義の同じ部分には二重下線を引き、参考引用関係を示している。

12)《玉篇殘卷》：汁，之入反。《禮記》汁沙澆于醖酒。鄭玄曰：謂浦秬鬯以醖酒也。浦出香汁曰謂之汁沙。又曰仲冬行秋令，則天時雨汁。鄭玄曰：雨汁者，水雪雜下也。《說文》汁，液也。《方言》斟協汁也。關西曰汁。郭璞曰：謂協和也。或曰潘汁，所未詳也。《漢書》梓潼郡有汁方縣。音時入反。 / 《王韻》：汁，液。【之入反】

13)《玉篇殘卷》：山，所間反。《周易》民為山。《周禮》大司徒掌辨其山林。鄭玄曰：積石曰山。《韓詩》土高大有石曰山。《說文》山者，宣也。宣氣散生，萬物有石而高也。《廣雅》山產也。 / 《王韻》：山，所間反。宣。三。【所間反】

14)《玉篇殘卷》：嶠，力制反。《說文》嶠，嶷也。 / 《王韻》：嶠（嶷），嶷嶷。【力制反】

15)《玉篇殘卷》：戔，胡關反。《說文》屋牡瓦下也。一曰維結也。 / 《王韻》：戔，屋牡瓦下。【胡關反】

16)《玉篇殘卷》：底，都禮反。《左傳》物乃底伏。杜預曰：底山也。又曰勿使有所應問，淋底以雲其體。杜預曰：底，滯也。《說文》上居也。一曰下也。野王案：《淮南》上窮至高之末，下側至深之底是也 / 《王韻》：底，下。一曰止。【都禮反】

17)《玉篇殘卷》：厓，五佳反。《爾雅》涘為厓。郭璞曰：謂水邊也。《說文》山邊也。《廣雅》厓，方也。或為涯字，在水部。 / 《王韻》：厓，山邊。【五佳反】

18)《玉篇殘卷》：礪，杜浪反。《說文》礪，石也。《蒼頡篇》梁國若礪縣之也。 / 《王韻》：礪，石。又山名。縣在梁郡。【杜浪反】

19)《玉篇殘卷》：碯，徒合，徒感二反。《說文》晝已復擣曰碯。《埤蒼》再晝也。 / 《王韻》：碯，晝。【徒合反】

20)《玉篇殘卷》：礪，下革反。《說文》石地也。《埤蒼》礪，确也。 / 《王韻》：礪，石地。【下革反】

21)《玉篇殘卷》：隱，於謹反。《周易》天地閑，賢人隱。野王案：隱，不見也。《論語》吾無隱乎。《爾雅》苞咸曰：隱函也。又曰侍君有三嚮：言及之而不言謂之隱是也。《國語》不可以隱於私。賈逵曰：隱猶私也。又曰以隱居令。賈逵曰：隱，安也。《禮記》大道既隱。鄭玄曰：隱猶玄，曰隱猶去也。又曰軍旅思隱情以虞度也。當思念情之所以度彼時之否也。《爾雅》隱，微也。郭璞曰：微猶巡送也。又曰隱，占也。郭璞曰：隱，度之也。《孟子》王如隱其無罪。劉熙曰：隱，度。《漢書》厚築其外，隱以今雅。服虔曰：隱，築也。鐵推築之也。《方言》隱，度定。《說文》隱，蔽。《謚法》見若堅長日隱之，拂不成曰隱，不顯尸困曰隱，懷情不書曰隱，雅隱翳也。《說文》以隱匿為字，在部。隱據之隱為暋字，在部。憂痛之隱為字，在心部。聲隱為石字，在石部。 / 《王韻》：隱，於謹反。正作暋。十。【於謹反】

22)《玉篇殘卷》：隍，胡光反。《周易》城復于隍。《說文》城池有水曰池，无水曰隍。《爾雅》隍，虛也。又曰隍，壑也。郭璞曰：空即為壑也。《蒼頡篇》城下坳坑也。 / 《王韻》：隍，城池隍。【胡光反】

23)《玉篇殘卷》：鰈，胡瓦反。《說文》鰈，鯉也。《聲類》鰈，鯉也。《廣雅》大鰈謂也。 / 《王韻》：鰈，鯉鰈。【胡瓦反】



## 4.2 《廣雅》の積義

両書の積義の同じ例のうち、《廣雅》を引用する例は10個ある。詳細は以下の通り。

- 1) 《玉篇殘卷》：諛，古恨反，胡典反。《說文》即諛也。《廣雅》諛，諛誣也。 / 《王韻》：諛，誣。又胡典反。【古恨反】
- 2) 《玉篇殘卷》：讀，側革反。《蒼頡篇》讀，謫也。《廣雅》讀，怒也。讀，讓也。今並為責字，在貝部。《說文》亦讀、噴字也。噴，呼也。在口部。 / 《王韻》：讀，怒。亦作噴。【側革反】
- 3) 《玉篇殘卷》：飩，五丸反。《廣雅》飩，餌也。 / 《王韻》：飩，餌飩。【五丸反】
- 4) 《玉篇殘卷》：餽，苦到反。《國語》以膏沐餽師。賈逵曰：餽，勞也。或為檣字，在木部。 / 《王韻》：餽，苦到反。餉軍。亦作檣。三。【苦到反】
- 5) 《玉篇殘卷》：脯，普胡反。《廣雅》脯，寔也。 / 《王韻》：脯，寔。【普胡反】
- 6) 《玉篇殘卷》：緡，古忽反。《說文》緡結也。《廣雅》緡結不解也。或為惛字，在心部。 / 《王韻》：緡，緡結。【古忽反】
- 7) 《玉篇殘卷》：縶，於力反。《周禮》履人掌為赤縶黃縶。《鄭衆》曰：以赤黃之絲為下緣也。《禮》家說縶。亦謂以采絲磔其下也。鄭玄曰：謂縫中紉也。《廣雅》縶，條也。或為韃字，在革部。 / 《王韻》：縶，條繩。【於力反】
- 8) 《玉篇殘卷》：縶，力質反。《廣雅》承縶縶也。 / 《王韻》：縶，縶縶。【力質反】
- 9) 《玉篇殘卷》：紹，力舉反。《廣雅》紹，繫緝也。《埤蒼》紹，繫紘也。 / 《王韻》：紹，緝紹。【力舉反】
- 10) 《玉篇殘卷》：總，呼骨反。《廣雅》總，衛微也。 / 《王韻》：總，微總。【呼骨反】

## 4.3 《埤蒼》の積義

両書の積義の同じ例のうち、《埤蒼》を引用する例は10個ある。詳細は以下の通り。

- 1) 《玉篇殘卷》：諛，於劔反。《方言》囁呶拏揚，會稽之語也。或謂之諛。郭璞曰：言誣諛也。又曰誣諛與也。齊曰：諛諛與猶。秦晉言阿與也。郭璞曰：相阿為者，所以致誣諛也。《埤蒼》諛，匿也。《說文》為掩，在女部。 / 《王韻》：諛，匿。亦作掩。【於劔反】
- 2) 《玉篇殘卷》：誣，如之反。《廣雅》誣，謾也。《埤蒼》誣，誘也。 / 《王韻》：誣，誘。【如之反】
- 3) 《玉篇殘卷》：輗，力竹反。《埤蒼》車輗輗三箱也。 / 《王韻》：輗，輗三箱。【力竹反】
- 4) 《玉篇殘卷》：輗，徒郎反。《埤蒼》輗輗輗也 / 《王韻》：輗，輗輗輗。【徒郎反】
- 5) 《玉篇殘卷》：嶮，魚檢反。《埤蒼》嶮嶮也。 / 《王韻》：嶮，嶮嶮山不平。【魚檢反】
- 6) 《玉篇殘卷》：碓，徒合，徒感二反。《說文》舂已復擣曰碓。《埤蒼》再舂也。 / 《王韻》：碓，舂。【徒合反】
- 7) 《玉篇殘卷》：礫，五合，五閭二反。《埤蒼》礫礫也。 / 《王韻》：礫，礫多兒。【五合反】



- 8)《玉篇殘卷》：緝，渠記反。《埤蒼》所以連緝也。 / 《王韻》：緝，連針。【渠記反】  
 9)《玉篇殘卷》：緝，口革反。《埤蒼》緝，緝緝也。 / 《王韻》：緝，緝。【口革反】  
 10)《玉篇殘卷》：網，徒弄反。《埤蒼》鴻網相通也。 / 《王韻》：網，相通。【徒弄反】

#### 4.4 《字書》の釈義

両書の釈義の同じ例のうち、《字書》を引用する例は9個ある。詳細は以下の通り。

- 1)《玉篇殘卷》：諫，胡桂反。《字書》或慧字也。慧，才智也，儼也，察也。在心部也。 / 《王韻》：諫（諫），才智。亦作諫。【胡桂反】  
 2)《玉篇殘卷》：諫，胡桂反。《字書》或慧字也。慧，才智也，儼也，察也。在心部也。0267 諫，《字書》亦諫字也。司馬相如《封禪書》義征不諫。《漢書音義》曰：諫，從也。野王案：訓從，亦与慧字義同，在吏部也。 / 《王韻》：諫（諫），才智。亦作諫。【胡桂反】  
 3)《玉篇殘卷》：輶，胡罪，胡瓦二反。《礼記》古者貴賤皆杖升。《孫武》仲朝見輪人以其杖關轂而輶輪者，於是有爵而後杖。野王案：輶謂抵擬支礙之也。《字書》輶，輶也。劉向《別錄》以為車釘盛膏之。輶，字音古禍反，在金部。 / 《王韻》：輶，輶。又胡瓦反。【胡罪反】  
 4)《玉篇殘卷》：灑，思累反。《字書》灑，灑也。 / 《王韻》：灑，思累反。灑。二。【思累反】  
 5)《玉篇殘卷》：陛，方（方）賈反。《字書》陛也。 / 《王韻》：陛，方賈反。陛。一。【方賈反】  
 6)《玉篇殘卷》：礪，胡簡反。《字書》石也。 / 《王韻》：礪，而石聲。【胡簡反】  
 7)《玉篇殘卷》：陞，徒郎反。《字書》或堂殿也，明也，盛也。在土部。 / 《王韻》：陞，殿陞。【徒郎反】  
 8)《玉篇殘卷》：緝，側鳩反。《論語》君子不以紺緝飭。孔安國曰：一入曰緝，三年小祥以緝飭衣也。《考工記》染羽五入為緝。鄭玄曰：染纁者三入而成文也，又再入以為緝。今礼俗文作爵，言如爵頭色也。《廣雅》緝，清也。《聲類》間色也。《字書》青赤色也。 / 《王韻》：緝，青赤色。【側鳩反】  
 9)《玉篇殘卷》：緝，乃心反。《字書》緝，緝也。 / 《王韻》：緝，乃心反。緝。一。【乃心反】

#### 4.5 《玉篇殘卷》の“野王案”

両書の釈義の同じ例のうち、《王韻》が《玉篇殘卷》の野王案を引用する例は7個ある。詳細は以下の通り。

- 1)《玉篇殘卷》：諍，側迸反。《說文》諍，止也。野王案：今世以為爭字。爭，諍也，別也。在受部也。 / 《王韻》：諍，側迸反。諍言。【側迸反】  
 2)《玉篇殘卷》：諍，魚記反。《說文》諍，哈也。《蒼頡篇》諍，欺也。《廣雅》諍，調也。野王案：相調也。 / 《王韻》：諍，調。【魚記反】  
 3)《玉篇殘卷》：差，楚宜，楚佳二反。《周易》失之豪釐，差以千里。野王案：差猶跌手也。

《毛詩》參差荇菜。野王案：參差不齊等也。又曰差池其羽。《箋》云：差池謂張舒其尾翼也。又曰既差我馬。《傳》曰：差，擇也。《左氏傳》何敢差池。杜預曰：差池不齊一也。《尚書大傳》帝用不差，神則不怒。鄭玄曰：差，疑也。《說文》差，貳也，不殖也。從左，從叕聲。

《廣雅》差，減也。差，欠也。差，邪也。疾痛之差。為瘡字，在疒部。車劫抵堂為齧字，在車部。 / 《王韻》：差，楚宜反。不齊。一。【楚宜反】

4) 《玉篇殘卷》：卦，古賈反。《周易》包羲始作八卦，觀變於陰陽而五卦。劉瓛曰：卦之言盡也，謂圖畫之也。野王案：卦兆一等可分著，布爻則曰卦，灼龜見兆則曰兆。《說文》卦，筮也。《廣雅》挂也，卦化也。 / 《王韻》：卦，古賈反。爻體。三。【古賈反】

5) 《玉篇殘卷》：階，古諧反。《尚書》舞干戚于間也。野王案：所以登堂之道也。《記礼》不得階主。鄭玄曰：階，上進也。言賓之辭不得指斥主人也。《孟子》使舜完廡捐附階。劉曰：階，杼也。野王案：《礼記》虞人設階。《楚辭》欲釋階而登天蓋是。《漢書》領我傷墜，爵復我既斯登，望我舊階，先后慈連階孔德。野王案：此謂官爵之階級也。《說文》階，陞也。 / 《王韻》：階，級階。【古諧反】

6) 《玉篇殘卷》：綌，力冉反。《方言》所以懸櫛，關西謂之綌。野王案：櫛所以懸鬘薄之橫者也。 / 《王韻》：綌，懸鬘簿。【力冉反】

7) 《玉篇殘卷》：索，蕪各反。《尚書》北雞之晨，惟家之索。孔安國曰：索，盡也。野王案：謂竭盡也。《左氏傳》患索弊賦。《儀礼》取矢不索，並是也。《周易》震索索視矍矍。王弼曰：懼而索也。《毛詩》芻尔索綯。野王案：糾纏曰索。《淮南》衣褐帶索。《楚辭》并細絲以為索，並是也。《左氏傳》碣以商政疆以周索。杜預曰：索，法也。《礼記》吾離羣而索居。鄭玄曰：索猶散也。《太玄經》小索大索，周行九度。宋忠曰：索，數也。《大戴礼》十尋曰索。《說文》草木有莖葉，可為繩索也。《廣雅》騰用絨繼絃繩緝絛縻絛縵微縵縵縵累索也。又曰索，獨也。求索之索為索字，音所格反，在穴部。 / 《王韻》：索，蕪各反。繩索。三。【蕪各反】

#### 4.6 他の文献の釈義

また、《王韻》は《玉篇殘卷》の文献を引用する用例が 95 個を含む合計 20 種文献を引用する。詳細は以下の通りである。

表 4：《王韻》は《玉篇殘卷》の文献を引用する回数表

《玉篇殘卷》 文献名称	《王韻》 引用回数	《玉篇殘卷》 文献名称	《王韻》 引用回数
《說文解字》	32	《蒼頡篇》	3
《埤蒼》	10	《禮記》	2
《廣雅》	10	《論語》	2
《字書》	9	《漢書》	2
《方言》	4	《山海經》	2

《爾雅》	4	《韓詩》	1
《毛詩》	3	《周易》	1
《周禮》	3	《莊子》	1
《楚辭》	3	《喪服傳》	1
《左傳》	3	《儀禮》	1

積義方面において、《王韻》の積義は簡潔であり、《玉篇殘卷》の積義を全引用した回数は一部に引用した回数比べてはるかに少なく、《玉篇殘卷》の引用した文献名称も削除された。また、《王韻》は《玉篇殘卷》に《説文解字》や《埤蒼》などの字書を引用し、《廣雅》や《爾雅》などの辞書を引用している。字書と辞書を参照し、あるいは引用した傾向があることは明らかである。《王韻》は《玉篇殘卷》の“野王案”の内容を引用した例は、《王韻》の編集過程中に《玉篇》を直接引用したことを示している。

## 5 おわりに

《玉篇殘卷》と《王韻》の所収字と反切分布状況を分析すると、以下のような結論が得られる。

(1) 《玉篇殘卷》の所収字が2071個あり、そのうち《王韻》の同収字は1884個、未収字は187個である。《玉篇殘卷》と《王韻》同収字1884個のうち、同反切の同音字が194個であり、10.3%を占める。異反切の同音字が1066個であり、56.5%を占める。異音字が624個であり、33.2%を占める。両書の同収字の66%以上が同音字である。音注方面において、《王韻》が《玉篇殘卷》の反切を直接引用する用例は、同音の異反切を使用する用例よりはるかに少ない。主な理由は、《王韻》の元来の小韻に準拠するために変更される。

(2) 敦煌本《切韻》諸殘卷と《玉篇殘卷》の同収字同反切の層は、601年成書の《切韻》が編纂段階に543年成書の《玉篇》を実際に参照、あるいは引用したことを意味する。

(3) 《王一》と《切韻》諸殘卷の同収字同反切の層は、《王一》の増訂過程中で用いた《切韻》の底本が諸殘卷との一致度が高いことを示唆する。

(4) 《王一》の増収字層において、その反切が《玉篇》と同じである現象は、《王一》の増訂過程中に《玉篇》を参照、あるいは引用したことを意味する。

(5) 故宮本《王韻》の反切と諸殘卷の反切がすべて異なる一方、逆に《玉篇殘卷》の反切と同じになっている部分は、①《王韻》が《王一》にとって収めた字の層、②《王韻》が《王一》に基づいて《玉篇》を引用して増訂した層、③《王韻》と《王一》の増訂に用いた《切韻》の底本が異なる層、という三つの層から構成されていると考えられる。

(6) 積義方面において、《王韻》は《玉篇殘卷》に《説文解字》や《埤蒼》などの字書を引用し、《廣雅》や《爾雅》などの辞書を引用している。字書と辞書を参照し、あるいは引用した傾向があることは明らかである。《王韻》は《玉篇殘卷》の“野王案”の内容を引用し

た例は、《王韻》の編集過程中に《玉篇》を直接引用したことを示している。

#### 参考文献

- (漢) 許慎：《說文解字》、影印清陳昌治刻大徐本、中華書局。1963
- (梁) 顧野王：《原本玉篇殘卷》、中華書局。2004
- (唐) 王仁昉：《刊謬補缺切韻》、中華書局。1983
- (日) 空海：《篆隸萬象名義》、中華書局。1995
- (宋) 陳彭年：《宋版玉篇》、日本宮内庁書陵部圖書寮藏宋刻本。
- (宋) 陳彭年：《宋本玉篇》、影印清澤存堂刻本、中國書店。1983
- (宋) 陳彭年：《宋本廣韻》、日本宮内庁書陵部圖書寮藏宋刻本。
- (宋) 陳彭年：《宋本廣韻》、影印清澤存堂刻本、中國書店。1982
- 郭錫良 (2010) 《漢字古音手冊》(增訂本)、商務印書館。
- 李葆嘉 (1997) 《廣韻反切今音手冊》、上海辭書出版社。
- 余迺永 (2008) 《新校互注宋本廣韻 (定稿本)》、上海人民出版社。
- 周祖謨 (1980) 《廣韻校本》、中華書局。
- 周祖謨 (1983) 《唐五代韻書集存》、中華書局。
- 張金泉 (2008) 《敦煌經部文獻合集》、中華書局。
- 徐朝東 (2021) 《切韻彙校》、中華書局。